



一般社団法人 日本LD学会

# 会 報 第 93 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F  
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

## 主な記事

### <特集>

- ・最近の施策<文部科学省>  
<厚生労働省>

### <連続講座>

- ・発達障害教育における合理的配慮

### <お知らせ>

- ・マイページのサービスのご紹介
- ・2015年度の予定について



## 風通しについての一考察

北海道大学教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター

岡 田 智

私の最近の楽しみは、薪ストーブの側で家族と何となくのんびり過ごすことです。そろそろ雪が解け始めましたので、薪割りを始め、また次の冬に備えようと思います。割った薪は薪棚に積み上げ乾燥させます。薪棚はよく風が通るように、置き場所を考えたり、隙間を空けて配置したりします。先日、今シーズン最後になるかもしれない薪ストーブに火を起す作業をしながら、風通しについて考えていました。

私が発達障害の子どもの支援をする際に心がけていることは、一つのことでも良いから、子どもや親がうまくいった、やれたという実感を得てもらうことです。一つのことに対する自信は意外と広がっていき、次の学びへの動機づけが高まります。(部分的なエフィカシーが全般的なエフィカシーへ)。子どもの学びにちょっとした成功体験という風穴を開けること、それがふさがっていた子どもの意欲を開放します。親支援についても同じで、支援者が子どもの些細な変化や小さくても確実な学びを親と共有することで、親自身の子どもへの成長の期待感が向上します。親が問題点よ

りも子どもの成長にフォーカスできるようになると、自然とあたたかい風が吹き込むようになります。

組織や連携についても同じことが言えると思います。まずは相手の苦労をねぎらう、そして、相手から得られた情報は自分の観点からではない貴重な情報であることを意識する、子どもを理解しようとする姿勢を共有しようとするなど、相手を慮ることを心がけます。心地よく子どものことを共有できたという成功体験は小さい経験かもしれませんが、自分や相手にとっても連携や協同に関するちょっとした効力感となります。風穴があくと、より良い協働関係が生じることも多く経験します。

含水量が多い薪はストーブの中ではよく燃えてくれず、嫌な煙も吐き出します。自分の心にも、子どもや親の心にも、組織にも風通しを良くしていくことで、カラッとホットにあたたかい気持ちでかわり、共に子どもの課題に立ち向かえることが出来ればいいなと思っています。